

## 平成25年度「みえの現場・すこいやんかトーク」(桑名市)の概要

11月30日(土)に桑名市のはまぐりプラザ前荷捌き場で「みえの現場・すこいやんかトーク」を開催しました。

当日は、「赤須賀漁業協同組合青壮年部研究会」の皆さん8名にお集まりいただき、活動内容や将来への思い、行政へ期待していることなどについて、ご意見などをお伺いしました。



### 【参加者からの発言】

参加者の皆さんから、以下のようなご意見をいただきました。

### 【活動紹介】

代表より会の活動を説明。

○ 自分は漁師になり6年目で、「しじみ」を専門に漁に出ている。赤須賀漁業協同組合青壮年部研究会は、120名の組合員のうち27名で構成され、「はまぐり」や「しじみ」の資源の確保や安定した漁獲量を維持するための研究をしている。活動内容としては、小学校の社会見学の受け入れや、学校給食の食材を桑名市内全小学校に配布したりして啓発を進めている。また、漁場の調査や、植樹活動も行っている。先輩方が増やしてくれた「はまぐり」を密漁者に採られないような監視も行っている。イベント等に出店し、おいしい「はまぐり」の食べ方を教えたり、漁業まつりのお手伝いも行っている。

Q, この活動に参加して、良かったこと、嬉しかったこと、感動したこと、やりがいを

## 感じたことはありますか？また、自慢話はありませんか？

赤須賀は若いメンバーが多いことがすごいところである。まったく奇跡の漁村だと言う人もいる。先輩方がこの関係を造ってくれたことがすごいことである。先輩たちは未来のビジョンを持って漁村を残しておくという信念がある。

最盛期は年間 3000 t の漁獲量があったが、平成 7 年には年間 0.8 t に落ち込み、絶滅の危機になった。先輩方が種苗生産や人工干潟を造って漁場を守ってくれたおかげで、今がある。感謝している。

私たちは漁獲量が落ち込んだ時のことを知らない。先輩から聞くところによると昔から漁場環境や資源を守り大事にしているとのことで、こんな場所は他にないと思う。地元で何とか、食っていける環境であり、自分を大事にしてくれる町が好きである。

漁師のいいところは皆が協力的なところで、他では味わえない。分からないことを教えてもらい、自分のものにしていく。

漁師になったきっかけは、親も漁師であり、小学生になる前まで同じように船に乗っていた。家で一人で留守番をするより、親といっしょにいられるので船に乗っていた。兄貴も漁師であり、漁師家系である。親の漁師仲間が色々面倒をみてくれるので仕事面でアドバイスをもらったり、とても良い環境である。

昔はトラックの運転手をしていたが、5年前から漁師をやっている。親も漁師であり、後を継ぎたいとの思いから漁師になった。漁師になり、この研究会に入り分かったことはたくさんある。資源・環境を守ってきた先輩たちの凄さ、次の世代につながる漁業の大切さを知った。この会に入って良かった。

もともと漁師は、朝が早くて、寒い、汚たないイメージがあった。日曜日も仕事であるし、漁師にはなりたくなかった。前の仕事が暇になり、おやじの船に乗った時、漁師もいいなあと思った。「しじみ」がたくさん採れたら嬉しいし、やりがいも出てきた。今では漁師になって良かったと思っている。陸の仕事と海の仕事は違うし、海ではミスしたら命を落とす危険性がある。

漁師はずっと前からやりたかった。高校も行かずに漁師をやりたいかったが、とりあえず高校に行き頑張ってみたが途中でやめ、漁師になり研究会に入り勉強をしている。今はすごく充実しているし、人より貝をいっぱい採った時など、腰は痛いけど楽しい。

とてもやりがいがある仕事である。実は自分は貝がきらいで食べない。魚は食べられる。その日の漁でおいしい魚が採れる時もある。趣味は釣りで、休日は釣りをする。漁師になれて良かった。

前の勤めはサラリーマンで、満員電車で通勤していた。今はもう戻れない。漁師は素晴らしい仕事であり、仕事を終えた後のご飯、お酒は特においしい。家で作る貝いっぱいの味噌汁を食べる時は幸せを感じる。

漁師だけはやりたくなかった。夏は暑いし、冬は寒い。親父にこき使われることが嫌でやりたくはなかった。きっかけは、仲の良い友人が仕事をやめ漁師になることを知らされ、衝撃が走った。なぜか血が騒ぎ自分も挑戦したい気持ちになった。兄も漁師であり、船に乗った。今はこれ以上の天職はないと思っている。その半面、次につなげていくことがプレッシャーである。この漁村を残したい。こ

れから期待してほしい。

日本一おいしい「はまぐり」を食べてほしいので、今日は用意した。色んな食べ方があるが、シンプルな方が良い。今日のは、だしを昆布でとり、煮込んで吸い物風に仕上げているものと、そのだし汁を使い、湯豆腐としてお出しするものである。

**Q,この活動をより良くしていくために、こんな課題があるんだとか、行政からはこんなお手伝い(サポート)がしてほしいなどありませんか？**

密漁者の問題が課題としてある。資源は増えているのに、密漁者は減らないのが現状である。遊び感覚で密漁をするため、知事の力で何とか対策を講じてほしい。パトロールで密漁者と話し合う中で、理解されずに逆切れされ、こちら側が防御する場面もある。守る人間が、犯罪者になる可能性もあることが心配である。

来年、5月のゴールデンウィーク前にパトロールを行うので知事に参加してほしい。密漁者は密漁しても罰金だけで済むという感覚がある。乱暴な言い方であるが、二度としたくないと思えるようなことがないと密漁はなくならないと思う。この漁場を大事にしていきたい。

自分達も密漁者に対して注意する以上の権限がほしい。ただ単に注意するだけでは、有効性に欠ける。強い権限があれば、未然に防げると思うし、海上保安庁に連絡している間に逃げられるケースもある。

密漁者が子どもと来る場合があり、子どもといっしょに貝拾いの感覚で採りにくる。子どもの前できついことも言わなくてはいけないし、とてもやりにくい。意図的にやっているのではなお悪い。親の反応として、素直に謝るか、喧嘩ごしになるかは半々である。

密漁者が最低 5000 人はいると聞いている。何とかしなくてはいけない。県外からの密漁者が多く、パトロールは全員でやっている。

知事に要望であるが、県の普及員はとても頑張ってくれている。もっと給料を上げてやってほしい。普及員があつてこそ、この研究会もここまで頑張れた。

**【知事の発言】**

赤須賀漁協では先輩の皆さんがよくやってくれたおかげで、若いメンバーが元気に動き回れる。とてもいい話である。

平成7年には漁獲量が0.8tまで減少していたのに、平成20年以降は100tを超える漁獲量になるまでに皆さんで頑張ってきたのだから、守らないといけない気持ちは理解できる。密漁者の対策では、どういふのができるか、今、宿題を出して検討しており、桑名市とも話していかなければいけない。また、取り締まりでは、他府県の事例、罰則の種類を研究してみる。密漁者のパトロールを、一度見に行くようにしたい。

東京では、漁業とまったく関係ないが、民間で取り締まるものもある。行政から認められて取り締まる例もある。

密漁は、「あかんものはあかん」と言いたい。たとえ子どもづれであろうとだめである。来年度、資源管理をきっちりと考えていかなければいけない。鳥羽市では

「あわび」の資源管理をやっている地区もある。

元気で頑張っている話をお聞きして漁師をやって良かったということも分かった。また、課題として密漁者がいること、その対策をしていかなければいけないことも分かった。私としては、赤須賀をPRしていかなければいけないと思っている。とにかく守り続けて頑張してほしい。

「はまぐり」を食べた感想であるがとても美味しい。濃厚でさっぱりしていて、とてもクリーミーでさわやかなイメージだ。

県の職員を褒めていただいて光栄である。本人も嬉しいと思うし、なかなか県職員が、他の団体から「給料を上げてやってくれ」と言われることはない。ありがたいことである。給料を上げることは難しいので、今後も研究会のためにもっともっと頑張ってもらおう。

奇跡の漁村のお話をお聞きして良かった。縦、横の関係が構築されている中で、世代間の絆が保たれ、若者を育て、担い手不足問題にも取り組まれている。課題として密漁の話もお聞かせいただいたので、対策も講じたいと思う。また資源管理もきっちりと対応していきたい。

(秋田赤須賀漁業協同組合組合長)

奇跡の漁村と言われて、資源管理を行ってきた。お金じゃなくて、色んな知恵を出し、ようやく実った。先人達や今の若者が意欲的に全国発信してくれて頑張っている。県の普及員には、本当に熱心に指導、忠告いただいており、良い状況にしてくれている。今日から、意識して「赤須賀のはまぐり」をいっぱい食べていただきたい。





### 「赤須賀漁業協同組合青壮年部研究会」の皆さんの概要

「赤須賀漁業協同組合青壮年部研究会」は、漁業の多面的機能発揮事業を推進し、ハマグリやシジミの資源の確保や安定した漁獲量を維持するための研究をしている皆さんです。